

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275300701		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホーム すきっぷ藤枝 (A棟)		
所在地	静岡県藤枝市稲川1丁目1番12号		
自己評価作成日	令和7年2月10日	評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2275300701-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤枝市の中心部にあり半径500メートルの範囲に市役所、消防署、図書館、神社、商店街等があります。瀬戸川も近く、四季折々自然の中で散歩を楽しむ人達の憩いのコースになっており、入所の方も散歩に出かけたり、気持ちよく外気浴もできます。施設の中庭にはスタッフと入所の方が育てている野菜があり、旬の野菜が食卓に彩りを添えてくれます。午後はスタッフによるレクリエーションや散歩、外気浴の時間を設け、楽しい時間を過ごしています。毎月の写真付きお便りの発行、ホームページ内で施設内の様子やイベントの様子の公開、年に数回のすきっぷ新聞の発行など、面会が制限されている中でもご家族様との情報交換や繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1歩入るとペンションのような雰囲気が広がり、高齢者施設の面影が薄い事業所です。見学者から「施設を幾つか見てきたけど、ここすごくいいですね」といった言葉が上がっています。「事故報告・ヒヤリハット統計」で月別の件数と発生時間の内訳を検証して、発生傾向を掴んでいるとの取組をはじめ、身体拘束廃止委員会における事例検討は「身体的要因・精神的要因・環境的要因・個人要因」の視点で考えられていたり、利用者を護ることへの堅固な取組が秀逸です。また、サービス担当者会議は家族の都合に合わせていて参加できない家族はいないという点も、利用者にとって最大の応援者を巻き込めていて、安心が満ちています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域になくてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員とも日々実践に努力している。会社の理念は玄関に掲げており、従業員だけでなく、来所されたご家族様、お客様にも常に目に見えるよう工夫している。	新入社員のオリエンテーションでは理念のカードを配付し、玄関やユニットの入口など職員が目にするであろう場所に掲示してあります。職員は「どうしたら利用者が安心して生活できるか」を考え、声かけに気遣ってくれていると管理者は日々感じています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には近所の方や出会った皆様と挨拶を交わしたり、会話も楽しんでいる。町内会の方には運営推進会議等でホームの日常を報告し、毎月の広報藤枝や公民館便りを届けていただいている。地域の人達との防災訓練、隣の施設との交流会は現在、コロナにより中止している。	過去にはギターボランティアの訪問や、地域の幼稚園に利用者の作品を届けたこともあります。が、コロナ禍を契機に機会が少なくなっています。近年については、県の職業体験の募集経路で、看護師を目指している高校生を受入れた実績が2年連続であります	足腰の強い人や土いじりが好きな人がいることから、芋ほりや梨狩りなど利用者の参加できることで情報を得られれば参加していきたいと思うとのことです。是非、実現を期待します
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区民生委員の方の見学や地域の方の介護の相談に応じている。藤枝市より派遣されている介護さわか相談員の訪問の受け入れは、一昨年から再開しているが、感染症の流行シーズンなどは中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、市の関係者、民生委員、町内会長、ボランティア代表等と意見の交換をし、議事録を作成しスタッフ全員が情報を共有している。2ヶ月間の施設の様子を紹介したり、事故報告書についての説明や困っている事、問題点などを報告して意見をいただいています。	「事故報告・ヒヤリハット統計」で月別の件数と発生時間の内訳を検証した結果、午後に発生する頻度が高いことを運営推進会議で報告したところ、参加者からの助言もあって現在入浴は午前におこなっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者の出席がありますので、事業所の実情についてお知らせして、ご意見をいただいている。介護さわか相談員の訪問の受け入れは、一昨年から再開している。	藤枝市の配信では災害情報を得ているほか、職員に言えないことを利用者が話せる人として、市から介護さわか相談員を受入れています。また、昨年まで管理者は市内事業所の代表として会合に出席しており、直接情報や助言を得ていました	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者はA棟、B棟の行き来も自由に出来るよう開放的な空間を心がけています。身体拘束廃止に関する指針を作成し3ヶ月に1度委員会を開催し、身体拘束の研修会も年2度開催している。新人職員にも入社後1カ月以内に身体拘束についての研修を実施している。	身体拘束廃止未実施減算並びに本年度義務付けの内容である委員会開催や研修を滞りなく実施しています。職員の声が穏やかで優しく、「仮にぶっきらぼうな人がいたら目立ってしまうと思う」との言葉に安心感を覚えます	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況のチェックだけでなく、本人の訴えや悩みの傾聴も行う。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作りスタッフ全員が共有できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前には、必ずご家族様との面談の機会を設け、不安や疑問点について具体的な説明を行っている。契約時、又は解約時だけでなく、いつでも相談しやすい環境作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者やご家族が何でも言える環境作りに心がけている。が、直接話づらい方のためには苦情・御意見箱を玄関に設置している。ご意見があれば全員で話し合いを行い改善策を見つける。ご家族がホームに来やすい雰囲気作り、利用者と職員がゆっくりすごせる時間づくり心がけその時でた会話等を介護に生かすようにしている。	面会は、現在も玄関先や事務所でこなっていますが、来訪を歓迎する環境設定として暖房でその場を温め、椅子が2つ用意されていました。また、サービス担当者会議は家族の都合に合わせていることから、参加できない家族はいません	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎朝の申し送り、伝達ノートなどから職員の意見や提案をくみ取り、反映させている。令和元年からは、「働き方改革」として休憩時間の確保、業務マニュアルの変更、介護記録の簡素化など実施した。令和5年6月にも職員の負担と人手不足を考慮し、業務マニュアルを変更した。	管理者は「とにかく楽しく仕事ができているかを気にかけている」とし、例えば元気がなさそうだなと感じれば声をかけ、体調が優れない時は無理せず帰ってもらおうという配慮を以って、職員から忌憚ない意見ができるよう図っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年度からキャリアパスを導入している。管理者はスタッフの性格や能力等の把握に努めている。休日の希望日は希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修、認知症サポーター養成講座、グループホーム協会などの研修に参加している。毎月内部研修もテーマを決めて行っている。研修の出席者は感想シートの提出、欠席者は課題を提出して答案を回収している。内部研修の報告書を作成して回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤枝市内のグループホーム連絡会や藤枝市の会議(医療・介護連携、認知症施策)に出席し、様々な職種から施設外の情報などを取り入れている。またグループホーム連絡会では、各施設の感染症対策や災害対策、人手不足解消についてなど情報交換を行い、横のつながりを積極的に作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、本人、ご家族様との面談の実施、担当ケアマネからの情報収集、利用していたサービス事業所の訪問と見学を行い、ご本人の困り事、不安な事、好きな事等の情報収集を行う。何でも話せる環境作り、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションから信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前には、必ずご家族様との面談の機会を設け、入所に関するご家族様の不安などを解消するよう努めています。また入所後も、家族様の要望、不安、不満を随時聞くようにし、一緒に問題を解決していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、(ニーズ)最適なサービスが受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共にし、信頼関係を築くように努めている。食器拭き、洗濯物たたみ、お品書き、新聞折りなど得意とする事を無理のない範囲で職員と行う事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に連絡し本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強めともに本人を支えていく事に努めている。毎月写真を添えたすきっぷ便り、すきっぷ藤枝新聞、ブログで近況をお知らせしている。家族には寝具衣類などの衣替えを協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は再開したが、検温やアルコール消毒などの感染対策は継続し、玄関先や外のベンチでの面会や事務所を利用した面会を実施している。またご家族様が遠方にいる方は、リモート面会など工夫をしながら、家族、親戚、友人、近所の方々と関係が継続できるよう努めている。	日常では、食器拭き、タオル畳み、洗濯物干し、モップ掛けといった生活リハビリを継続し、携帯を自身で操作する人がいる一方で、家族から年賀状が届く人もいます。面会訪問も家族だけでなく、以前の職場やサークルの仲間の姿もあります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるがこの場所と一緒に暮らすためにお互いの性格を把握し、係わり合い、支えあえるよう支援していく。また孤立する方がでないよう見守りに努める。席の位置を工夫したり、お互いの会話にも気を配る。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族様がその後の様子を知らせるために、気軽にホームに尋ねてきたり、電話やお手紙をくれる等の繋がりのある関係性ができている。入所前に携帯を使用していた方には、携帯の持ち込みも許可しており、なじみのある方との交流も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴、趣向を把握し日々の介護生活に生かしている。なるべく本人の希望に添えるよう努力している。外出レクや散歩を取り入れ、気分転換や季節を感じていただけるよう努めている。	職員と2人だけのときは「外出したいよ」「あんこ食べたい」と直接的な要望が上がっていますので、入浴をはじめとする1対1の機会を大切にしています。一方で、「言えない、言わない人にはこう考えているのかな?」と推測して試行を重ねています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	市役所から認定調査書の取り寄せ、担当ケアマネからの情報提供書を確認して、入所時に家族からの情報を元に生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれる事はやれるよう支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族は「何をのぞんでいるのか」と言う問いにいつも真剣に考え毎朝のミーティング等で話し合ったり家族を含めて担当者会議行い、ケアプランに活かしている。	職員の観察眼が高く、現場で介護をしながらモニタリングが成り立っており、内容は月に一度のミーティングの場で発表され、共有が図られています。また介護計画書は「中庭での野菜収穫による季節感の把握」といった、具体的なサービス内容で構成されています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をつけ、職員は情報を共有している。毎朝ミーティング時に個別の介護プランについて意見交換し、介護計画の見直しに役立てている。特変があれば申し送りノートに記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の診療、説明等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、本人の意向に沿いながら、親戚、友人、知人、近所の方等やさわやか相談員、民生委員、ボランティアの受け入れをし、豊かな暮らしが可能となるよう支援していた。令和5年8月頃から徐々に再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には、かかりつけ医の2週間に一度の診療、緊急時の往診、アドバイス、24時間いつでも医者、看護師と連絡の取れる体制が出来ている。年に1度健康診断を実施している。	在宅の頃からのかかりつけ医を継続する人は2名おり、「受診記録」を家族に手渡して通院介助を依頼しています。それ以外の利用者は、隔週で訪問診療を受けており、事業所では勤務看護師が立ち会っています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年より看護師を配置している。提携先のドクター、看護師とは、利用者の情報を共有しており、2週間に1度の診療や看護を受けている。緊急時は24時間、いつでも看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際してはかかりつけ医の紹介状用意、正確な情報提供を行う。病院のワーカー(相談員)と密に連絡を取り合い家族を交えて話し合いを行い、安心して入院治療ができるようバックアップしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際や担当者会議の際に、家人に延命治療についての考え方を緊急連絡カードに自筆で記入していただいている。本人やご家族様のご意向、健康状態などを考慮し、状況に応じ看取りを行っていく。数年で看取りに近い状況を何名か経験していることから、スタッフも慌てずに落ち着いて支援することができている。	係る指針を備え、入所の段階では「看取りはおこなっていない」ことを家族には伝えていますが、例えば「身寄りがいない」「医療行為の必要ない老衰」といった場合には看取りが実施されています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習修了者、medic, First, Aid受講者もあるが、全員に実践力を身につけようになりたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で防災訓練を行っている。近年は水害が多い為、水害に備えた避難マニュアルも作成した。また、施設内には常備してある食料・水・介護用品などを備蓄してある為、緊急時は地域の高齢者を受け入れる体制が出来ている。	春には火災想定、初冬に地震からの火災発生想定で年2回の法定訓練を実施しています。「車いすの空気圧をチェックしておくべきだった」「防災頭巾のゴムの緩いものがいくつかあった」など、参加後には職員が意見を書き記しています	夜間想定で訓練したときは、利用者にはベッド上で寝てもらい、職員4名で対応したとのことです。実際は1ユニット1名ですので、どのように対応するのが有効か、机上訓練で協議することを期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。	契約書には「個人情報について第三者に漏らすことはありません」との一文を入れ、年1回の接遇研修では「もし自分の家族が入居するとしたら」と投げかけるとともに「声掛けの大切さ」を伝えています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮なく自分の考えを言える雰囲気作りに努める。本人に馴染みのある家事や仕事を提供し、自分らしい生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日常生活の中でその人の希望に添った暮らしができていないか絶えず注意、観察しながら支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームには訪問理美容の方が来てくれます。衣類、装飾品、化粧品等も家族と連絡を取りながら支援している。毎朝どの洋服を着たいか本人に選んでいただいている。外出の目的や施設内のイベントに応じてお化粧品のお手伝いや服装の相談にものっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の料理の好き・嫌いを把握し(苦手な料理時は代替品を提供)、楽しい食事になる様心がけている。嚥下や咀嚼の状態に合わせ、食事形態を変更している。旬の食材を出来る限り取り入れた手作り料理を提供。全員が食卓に着いてから「いただきます」をしている。	利用者の好き嫌いを把握し、「魚が苦手な人には卵料理を提供する」「麺だとむせる人にはご飯に変更する」といった対応を日常的におこない、またクリスマスのチキンライス、大晦日のてんぷらそば等、行事食にも力を入れています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日等の体調の記録で一人一人の体調変化を把握している。介護記録、バイタルチェック表にて排尿、排便、食事量、水分補給等小まめに観察し健康維持を図っている。水分補給が苦手な方には、本人の好みの飲み物やゼリーにして提供するなど、工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフの声かけ、見守りの中で口腔ケアを実施している。自力で困難な方には介助にて口腔ケアを行い、口腔内の問題や義歯の調整などが必要な場合は、必要に応じて歯科受診や訪問歯科診療を利用している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行う。布パンツ使用を続行できるよう努めている。自立して排泄できない方は安全第一に対応している。	排泄時間や尿便の量を記録して支援につなげています。例えば、車いすに座っている人が立ち上がることもあり、排尿の間隔から原因が尿意だと把握でき、その時間前後にトイレ誘導すれば不意な立ち上がりも未然に防げるとわかり対応しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックは毎日している。便秘による不穏や不安にならないよう食事献立を考え、水分補給や運動を促し、排便の生活リズムを作るようにして、便秘の予防をしている。レク活動等を通じ安全に配慮しながら身体を動かすことで、便通改善につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は3日に1回となり、入浴できない日は清拭を行い、清潔保持に努めている。体調に応じて入浴を清拭に変更したり、時間、順番に関してはできるだけ希望に添えるようにしている。入浴前にはバイタルチェックを行っている。	入浴は週2回を目安にしており、希望に応じて回数を増やすのは配置的に難しいとしています。ただし、決められた入浴回数の中でも、「一番風呂が良いよ」とか同性介助等、一人ひとりの希望には応えています	回数を増やせない代替として、入浴のない日は足浴を提供したり、「温泉の日(入浴剤)」とか時節風呂の日もあると良いかと思います
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状態により昼寝を勧めたり、ソファでも休息できるよう声かけをしている。夜間安眠できるような環境(騒音防止、照明、室温)に配慮している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)定期的に寝具を干したり洗濯をし気持ち良い眠りを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、処方された薬の目的、副作用、用法、用量は細かく調べファイルを作り、各スタッフが共有している。服薬については、毎食後、服薬シートを作成して、誤薬を防いでいる。投薬前、本人氏名、投薬指示を読み上げる事で誤薬を防いでいる。薬のセット時、別の職員にも確認をしてもらいダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態を把握しその方の生活歴や趣味、嗜好を考慮しながら支援している。調理、掃除、洗濯物たたみ、園芸、買い物等毎日の生活の中での楽しみや興味あることの発見により、より良いケアが出来るよう努めている。誕生日、季節の行事を大事にしそれに伴う食事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温などにもよるが、できるだけ戸外の散歩を楽しめるようにしている。瀬戸川沿いの散歩では四季折々の自然を五感で楽しむことが出来る。買い物への同行やドライブなども徐々に再開し、外出機会や気分転換の機会を増やしていきたい。	事業所はさくらの時期はお花見ができる場所に立地しており、居室の位置によっては窓枠からも眺めることができます。足腰がしっかりしている利用者は自分から「買い物に行きたい」というので管理者と一緒に出掛けています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが、原則お金はホームで管理している。(自分で所持していて、盗まれたらといって他の入居者とトラブルになることを避けるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望あれば電話ができるよう随時対応している。また、手紙を書く習慣のある方は、対話を通じて積極的にペンがすすむよう支援しています。遠方のご家族様には、リモート面会によって、利用者のご家族様との交流ができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさは極力排除して普通のような雰囲気作り心がけている。スタッフや利用者手作りの作品(タペストリー等)を飾ったり季節の花々や節句の飾り物等々、四季折々居心地の良い空間作りを心がけている。現在は季節ごとに、利用者と共に作成している季節に沿った掲示物作りに力を入れている。	木目調の室内の配色に合うクリーム色のカーテンが取り付けられ、レースカーテン双方で日差しの差し込みを調整しています。全体的に清々しく、例えばトイレも掃除道具が決められたところに下げられているなど、隅々まで整理されています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにTV、ソファ、イス、玄関、ウッドデッキの中庭などにもベンチが置いてあり、好きな場所で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自分の使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要な物は買い物に同行して買い揃えたり、本人の好みを尊重している。A,B棟自由に出入りできるようにしている。	ローチェストの上に所狭しと小物などが並んでいたりとか、壁掛けハンガーラックへ衣類とともに好みのものを下げていたり、思い思いの居室で生活している事を視認しました。どの部屋も趣味や個性が際立ち、自由な暮らしぶりが伝わります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーになっており、手摺り、段差なし、車椅子使用トイレ、スプリンクラー設備と安全に配慮した作りとなっている。又個々のレベル状態を把握しながら自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275300701
法人名	有限会社ケアサポート・豊田
事業所名	グループホーム すきっぷ藤枝 (B棟)
所在地	静岡県藤枝市稲川1丁目1番12号
自己評価作成日	令和7年2月10日
評価結果市町村受理日	令和7年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2275300701-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和7年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤枝市の中心部にあり半径500メートルの範囲に市役所、消防署、図書館、神社、商店街等があります。瀬戸川も近く、四季折々自然の中で散歩を楽しむ人達の憩いのコースになっており、入所の方も散歩に出かけたり、気持ちよく外気浴もできます。施設の中庭にはスタッフと入所の方が育てている野菜があり、旬の野菜が食卓に彩りを添えてくれます。午後はスタッフによるレクリエーションや散歩、外気浴の時間を設け、楽しい時間を過ごしています。毎月の写真付きお便りの発行、ホームページ内で施設内の様子やイベントの様子の公開、年に数回のすきっぷ新聞の発行など、面会が制限されている中でもご家族様との情報交換や繋がりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1歩入るとペンションのような雰囲気が広がり、高齢者施設の面影が薄い事業所です。見学者からも「施設を幾つか見てきたけど、ここすごくいいですね」といった言葉が上がっています。「事故報告・ヒヤリハット統計」で月別の件数と発生時間の内訳を検証して、発生傾向を掴んでいるとの取組をはじめ、身体拘束廃止委員会における事例検討は「身体的要因・精神的要因・環境的要因・個人要因」の視点で考えられていたり、利用者を護ることへの堅固な取組が秀逸です。また、サービス担当者会議は家族の都合に合わせていて参加できない家族はいないという点も、利用者にとって最大の応援者を巻き込めていて、安心が満ちています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域になくてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員とも日々実践に努力している。会社の理念は玄関に掲げており、従業員だけでなく、来所されたご家族様、お客様にも常に目に見えるよう工夫している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には近所の方や出会った皆様と挨拶を交わしたり、会話も楽しんでいる。町内会の方には運営推進会議等でホームの日常を報告し、毎月の広報藤枝や公民館便りを届けていただいている。地域の人達との防災訓練、隣の施設との交流会は現在、コロナにより中止している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区民生委員の方の見学や地域の方の介護の相談に応じている。藤枝市より派遣されている介護さわやか相談員の訪問の受け入れは、一昨年から再開しているが、感染症の流行シーズンなどは中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、市の関係者、民生委員、町内会長、ボランティア代表等と意見の交換をし、議事録を作成しスタッフ全員が情報を共有している。2ヶ月間の施設の様子を紹介したり、事故報告書についての説明や困っている事、問題点などを報告して意見をいただいています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者の出席がありますので、事業所の実情についてお知らせして、ご意見をいただいている。介護さわやか相談員の訪問の受け入れは、一昨年から再開している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者はA棟、B棟の行き来も自由に出来るよう開放的な空間を心がけています。身体拘束廃止に関する指針を作成し3ヶ月に1度委員会を開催し、身体拘束の研修会も年2度開催している。新人職員にも入社後1カ月以内に身体拘束についての研修を実施している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況のチェックだけでなく、本人の訴えや悩みの傾聴も行う。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作りスタッフ全員が共有できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する前には、必ずご家族様との面談の機会を設け、不安や疑問点について具体的な説明を行っている。契約時、又は解約時だけでなく、いつでも相談しやすい環境作りを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より利用者やご家族が何でも言える環境作りに心がけている。が、直接話づらい方のためには苦情・御意見箱を玄関に設置している。ご意見があれば全員で話し合いを行い改善策を見つける。ご家族がホームに来やすい雰囲気作り、利用者と職員がゆっくりすごせる時間づくり心がけその時でた会話等を介護に生かすようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎朝の申し送り、伝達ノートなどから職員の意見や提案をくみ取り、反映させている。令和元年からは、「働き方改革」として休憩時間の確保、業務マニュアルの変更、介護記録の簡素化など実施した。令和5年6月にも職員の負担と人手不足を考慮し、業務マニュアルを変更した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年度からキャリアパスを導入している。管理者はスタッフの性格や能力等の把握に努めている。休日の希望日は希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修、認知症サポーター養成講座、グループホーム協会などの研修に参加している。毎月内部研修もテーマを決めて行っている。研修の出席者は感想シートの提出、欠席者は課題を提出して答案を回収している。内部研修の報告書を作成して回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤枝市内のグループホーム連絡会や藤枝市の会議(医療・介護連携、認知症施策)に出席し、様々な職種から施設外の情報などを取り入れている。またグループホーム連絡会では、各施設の感染症対策や災害対策、人手不足解消についてなど情報交換を行い、横のつながりを積極的に作っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、本人、ご家族様との面談の実施、担当ケアマネからの情報収集、利用していたサービス事業所の訪問と見学を行い、ご本人の困り事、不安な事、好きな事等の情報収集を行う。何でも話せる環境作り、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションから信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前には、必ずご家族様との面談の機会を設け、入所に関するご家族様の不安などを解消するよう努めています。また入所後も、家族様の要望、不安、不満を随時聞くようにし、一緒に問題を解決していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、(ニーズ)最適なサービスが受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共にし、信頼関係を築くように努めている。食器拭き、洗濯物たたみ、お品書き、新聞折りなど得意とする事を無理のない範囲で職員と行う事で暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に連絡し本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強めともに本人を支えていく事に努めている。毎月写真を添えたすきっぷ便り、すきっぷ藤枝新聞、ブログで近況をお知らせしている。家族には寝具衣類などの衣替えを協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は再開したが、検温やアルコール消毒などの感染対策は継続し、玄関先や外のベンチでの面会や事務所を利用した面会を実施している。またご家族様が遠方にいる方は、リモート面会など工夫をしながら、家族、親戚、友人、近所の方々との関係が継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるがこの場所と一緒に暮らすためにお互いの性格を把握し、係わり合い、支えあえるよう支援していく。また孤立する方がでないよう見守りに努める。席の位置を工夫したり、お互いの会話にも気を配る。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族様がその後の様子を知らせるために、気軽にホームに尋ねてきたり、電話やお手紙をくれる等の繋がりのある関係性ができている。入所前に携帯を使用していた方には、携帯の持ち込みも許可しており、なじみのある方との交流も継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴、趣向を把握し日々の介護生活に生かしている。なるべく本人の希望に添えるよう努力している。外出レクや散歩を取り入れ、気分転換や季節を感じていただけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	市役所から認定調査書の取り寄せ、担当ケアマネからの情報提供書を確認して、入所時に家族からの情報を元に生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれる事はやれるよう支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族は「何をのぞんでいるのか」と言う問いにいつも真剣に考え毎朝のミーティング等で話し合ったり家族を含めて担当者会議行い、ケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をつけ、職員は情報を共有している。毎朝ミーティング時に個別の介護プランについて意見交換し、介護計画の見直しに役立てている。特変があれば申し送りノートに記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の診療、説明等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、本人の意向に沿いながら、親戚、友人、知人、近所の方等やさわやか相談員、民生委員、ボランティアの受け入れをし、豊かな暮らしが可能となるよう支援していた。令和5年8月頃から徐々に再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には、かかりつけ医の2週間に一度の診療、緊急時の往診、アドバイス、24時間いつでも医者、看護師と連絡の取れる体制が出来ている。年に1度健康診断を実施している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年より看護師を配置している。提携先のドクター、看護師とは、利用者の情報を共有しており、2週間に1度の診療や看護を受けている。緊急時は24時間、いつでも看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際してはかかりつけ医の紹介状用意、正確な情報提供を行う。病院のワーカー(相談員)と密に連絡を取り合い家族を交えて話し合いを行い、安心して入院治療ができるようバックアップしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際や担当学会議の際に、家人に延命治療についての考え方を緊急連絡カードに自筆で記入していただいている。本人やご家族様のご意向、健康状態などを考慮し、状況に応じ看取りを行っていく。数年で看取りに近い状況を何名か経験していることから、スタッフも慌てずに落ち着いて支援することができている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習修了者、medic, First, Aid受講者もあるが、全員に実践力を身につけようになりたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で防災訓練を行っている。近年は水害が多い為、水害に備えた避難マニュアルも作成した。また、施設内には常備してある食料・水・介護用品などを備蓄してある為、緊急時は地域の高齢者を受け入れる体制が出来ている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮なく自分の考えを言える雰囲気作りに努める。本人に馴染みのある家事や仕事を提供し、自分らしい生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日常生活の中でその人の希望に添った暮らしができていくか絶えず注意、観察しながら支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームには訪問理美容の方が来てくれます。衣類、装飾品、化粧品等も家族と連絡を取りながら支援している。毎朝どの洋服を着たいか本人に選んでいただいている。外出の目的や施設内のイベントに応じてお化粧のお手伝いや服装の相談にものっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の料理の好き・嫌いを把握し(苦手な料理時は代替品を提供)、楽しい食事になる様心がけている。嚥下や咀嚼の状態に合わせ、食事形態を変更している。旬の食材を出来る限り取り入れた手作り料理を提供。全員が食卓に着いてから「いただきます」をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日等の体調の記録で一人一人の体調変化を把握している。介護記録、バイタルチェック表にて排尿、排便、食事量、水分補給等小まめに観察し健康維持を図っている。水分補給が苦手な方には、本人の好みの飲み物やゼリーにして提供するなど、工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフの声かけ、見守りの中で口腔ケアを実施している。自力で困難な方には介助にて口腔ケアを行い、口腔内の問題や義歯の調整などが必要な場合は、必要に応じて歯科受診や訪問歯科診療を利用している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行う。布パンツ使用を続行できるよう努めている。自立して排泄できない方は安全第一に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックは毎日している。便秘による不穏や不安にならないよう食事献立を考え、水分補給や運動を促し、排便の生活リズムを作るようにして、便秘の予防をしている。レク活動等を通じ安全に配慮しながら身体を動かすことで、便通改善につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は3日に1回となり、入浴できない日は清拭を行い、清潔保持に努めている。体調に応じて入浴を清拭に変更したり、時間、順番に関してはできるだけ希望に添えるようにしている。入浴前にはバイタルチェックを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状態により昼寝を勧めたり、ソファでも休息できるよう声かけをしている。夜間安眠できるような環境(騒音防止、照明、室温)に配慮している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)定期的に寝具を干したり洗濯をし気持ち良い眠りを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、処方された薬の目的、副作用、用法、用量は細かく調べファイルを作り、各スタッフが共有している。服薬については、毎食後、服薬シートを作成して、誤薬を防いでいる。投薬前、本人氏名、投薬指示を読み上げる事で誤薬を防いでいる。薬のセット時、別の職員にも確認をしてもらいダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態を把握しその方の生活歴や趣味、嗜好を考慮しながら支援している。調理、掃除、洗濯物たたみ、園芸、買い物等毎日の生活の中での楽しみや興味あることの発見により、より良いケアが出来るよう努めている。誕生日、季節の行事を大事にしそれに伴う食事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温などにもよるが、できるだけ戸外の散歩を楽しめるようにしている。瀬戸川沿いの散歩では四季折々の自然を五感で楽しむことが出来る。買い物への同行やドライブなども徐々に再開し、外出機会や気分転換の機会を増やしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが、原則お金はホームで管理している。(自分で所持していて、盗まれたらといって他の入居者とトラブルになることを避けるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望あれば電話ができるよう随時対応している。また、手紙を書く習慣のある方は、対話を通じて積極的にペンがすすむよう支援しています。遠方のご家族様には、リモート面会によって、利用者のご家族様との交流ができるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさは極力排除して普通の家庭のような雰囲気作り心がけている。スタッフや利用者手作りの作品(タペストリー等)を飾ったり季節の花々や節句の飾り物等々、四季折々居心地の良い空間作り心がけている。現在は季節ごとに、利用者と共に作成している季節に沿った掲示物作りに力を入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにTV、ソファ、イス、玄関、ウッドデッキの中庭などにもベンチが置いてあり、好きな場所で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自分の使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要な物は買い物に同行して買い揃えたり、本人の好みを尊重している。A,B棟自由に出入りできるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーになっており、手摺り、段差なし、車椅子使用トイレ、スプリンクラー設備と安全に配慮した作りとなっている。又個々のレベル状態を把握しながら自立した生活が送れるよう支援している。		